

## ■ 調査結果の分析

小 学 校	
成 果	・小学校においては、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るため、ICTを活用した授業改善を行ったことにより、「体育の授業が楽しい」「やや楽しい」と感じる児童の割合が全国および全道を上回ったと考えられる。
課 題	・全国および全道と比較して、ICTの活用頻度は高く、学びを深める取組に寄与している面が見られるが、さらなる使い方の工夫を図ることにより、児童が取組を振り返りながら体力面の目標を設定したり、課題解決に向けての取組を授業以外の場面で実施したりするなど、体力向上に取り組む。

中 学 校	
成 果	・中学校において、研修主題を「よりよく対話し、学びを深める」とし、保健体育授業において仲間と教え合ったり協力したりする場面を位置付け、運動への意欲向上を追求してきたことにより、「友達と交流したり、協力できたときに運動の楽しさを感じる」と回答した生徒の割合が全国および全道を上回ったと考えられる。
課 題	・全国および全道と比較して、保健体育科の授業において楽しさを感じながら意欲的に取り組んでいるが、実技調査で課題となっている「長座体前屈」（柔軟性）について、課題意識をもち、改善を図るとともに授業以外の場面でも体力向上に取り組む素養を育む。

## ■ 福島町の体力向上に向けた改善方法

- ・福島町における全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果をふまえた体力向上や福島アカデミーでの資料の作成および小中連携の在り方など普及啓発に努める。
- ・スポーツ庁の「ICT端末を活用した体育・保健体育授業の事例集」を参考にデジタル学習基盤を活用した「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の推進に努める。
- ・町で取り組んでいる縄跳び大会や体力テスト、ジュニアスイミングなどへの参加を促す。
- ・基本的な生活習慣や継続的な運動習慣について、家庭および地域と連携し、児童生徒の取組のサポート体制を整える。



◀福島町のホームページにも詳しく掲載していますので、そちらもご覧ください